

## 地域の現状・課題

- 山形連携中枢都市圏において、公共交通の連携事業の実施により、広域的な公共交通網形成による住民生活の利便性向上、高齢者などの交通弱者や学生などに対する移動手段の確保などを目指している。
- 地域資源を活かした交流の拡大を目指し、新たな核となる観光地づくりや旅行者の背景や価値観の多様化に対応したコンテンツや対応が求められている。



	現状	課題
通院	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 二次医療機関は、東南村山地域、西村山地域、北村山地域それぞれに所在。特に基幹病院に対しては、各市町においてにデマンドを含むバスやタクシーにより通院手段を確保。</li> <li>■ 高度で特殊な医療や二次医療機関で対応困難な専門的な医療を提供する三次医療機関（県立中央病院（最寄の鉄道駅：JR南出羽駅）、山形大学医学部附属病院(※)は山形市内にしかない。 ※ 山形駅と蔵王駅間の新駅構想 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 県立中央病院には14市町から通院している。</li> </ul> </li> </ul> <p>通院手段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 医療機関への通院実態：自家用車利用（家族送迎）が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 通院による専門的医療の提供が拡大する一方で、高齢者の一人暮らし・高齢者のみの世帯の増加が見込まれる。公共交通機関を活用した通院体制の充実は今後必要。</li> </ul> <p>公共交通の利便性の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 便数の課題：バスや鉄道の便数が少ない、曜日限定のダイヤ</li> <li>・ 乗り継ぎの課題：乗り継ぎの多さ、待ち時間が長い、体力的な困難さなど <ul style="list-style-type: none"> <li>➔ ドアツードアのニーズへの対応</li> </ul> </li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自家用車利用から公共交通機関利用への意識転換</li> </ul>
通学	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 大学等の高等教育機関が山形市内に集中して所在。高等学校は10市町に所在している。</li> </ul> <p>通学手段</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 鉄道等を利用し、学生は居住する市町を超えて通学。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 鉄道駅から学校までは、徒歩のほか自転車、バスを利用。（多くの学生は自転車を活用する傾向にあると推察。）</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 自宅・学校から鉄道駅までのバスが限られている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ バス停の位置：自宅の最寄りに無い又は遠い。 など</li> </ul> </li> <li>■ 公共交通の利便性の課題 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 便数の課題：通学する時間帯のバス便数が少ない、曜日限定のダイヤ</li> <li>・ 乗り継ぎの課題：バスと鉄道を組み合わせる場合、接続する時間が合わない など</li> </ul> </li> </ul>
観光	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 国内外からの旅行者が蔵王、銀山温泉、月山等の主要観光地に、空港や鉄道駅から交通事業者や旅館経営者が運行するバスやタクシー、またはレンタカーといった二次交通を活用し、足を運んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 主要観光地への公共交通機関での移動手段が限られていることに加え、旅行者が村山管内の観光地や市街地等を快適に周遊できる環境が整っていない。</li> </ul>

# 村山地域の地域別目標

## 目指す地域の姿

通学、通院、観光など様々な移動ニーズに対応した“住み続けられる・訪れたくなる豊かな社会環境の実現”

## 地域別目標

村山地域を広範囲に移動する主要な医療機関への通院・面会、大学や高校等への通学、観光などにおいて、鉄道と各種公共交通機関との相互連携を推進し、市町・3地域の圏域を超えた地域公共交通の利便性向上を目指す。

## 課題解決に向けた対応

- 移動の状況、統計情報・データなどを踏まえた現状整理
  - ・ 通学や通院、観光に関する現況調査の実施
  - ・ 統計情報やGTFSデータ、各種アンケート結果による分析の実施
- 公共交通機関の相互連携の強化
  - ・ 鉄道×バス、鉄道×デマンド交通など、異なる公共交通機関をシームレスにつなぐ運行路線やダイヤ調整などの取組みに向けた検討を行う。
- 公共交通利用促進のための情報発信

## スケジュール

※具体的な内容や進め方、その他課題解決に向けて取組むべき事項等は、地域別部会において検討・協議していく。

対応内容	年度	準備	計画期間				
		R7	R8	R9	R10	R11	R12
次期県計画（R13～R17）への対応							
現状整理							
①現況調査							
②統計・データの分析							
公共交通機関の相互連携の強化							
接続性向上や連携方策の検討							
公共交通利用促進のための情報発信							